

658号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2024.3.10

畜産女性研修会を開催しました..... 1	祝 舟塚有克さんが令和5年度 富山県農業振興賞を受賞..... 4
高病原性鳥インフルエンザ 引き続き最大限の警戒を！ 2	今年度最後の北陸三県和牛子牛市場が 開催される..... 4
死亡牛の牛海綿状脳症(BSE)検査対象が 変わります..... 2	検査室レポート..... 5
アフリカ豚熱の防疫情報について..... 3	【トピックス】牛マンヘミア症..... 5
令和5年度家畜衛生技術検討会を 開催しました..... 3	防疫情報..... 6
祝 柏泰誠さんが令和5年度ワクワク とやま農林水産奨励賞を受賞..... 4	定期報告等の手続きが電子化されます ... 6

畜産女性研修会を開催しました



研修会の様子

2月14日、富山市「ゆ〜とりあ越中」において、東部・西部地域畜産経営技術推進指導協議会が、畜産女性研修会を開催しました。研修会では、県立中央農業高校の生徒による「GAP認証のその先」と題して、北陸の畜産農場では初めてGAP（農業生産工程管理）の認証を取得した取組みの経過や、和牛甲子園に出場し、他高校の取組みを知ることにより、課題等を認識できたことを報告されました。また、今後は、中学校等で出前授業や後輩への技術継承をしていきたいとの事でした。

次に、高岡市の酪農家（株）clover farm 代表の青沼光さんによる「富山県の農業を考える」について、講演がありました。青沼さんは、広島県出身で第三者継承を経て現農場を運営されてきた視点から、富山県の農業の特徴や課題等について、また、現在の酪農を取り巻く状況を見据えた上で、「100年先も続く酪農を」を目標に、おからなどの地域の未利用資源の活用、農商工連携や新たな酪農の仲間を増やすための取組みについて紹介されました。参加された皆さんは、それぞれの内容について、興味深く、関心をもって研修を受けておられました。

研修後は、中央農業高校生や青沼さんも一緒に、畜種の異なる畜産女性の皆さん方と歓談し、研修会では聞けなかった内容についての質問や情報交換などを行うなど、充実した時間となりました。

今後も、富山の畜産を支える女性たちの研修や意見交換の場を設けていきたいと思っています。

(西部家保環境課 粕谷課長)

高病原性鳥インフルエンザ 引き続き最大限の警戒を！

今シーズンの家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生事例のうち、2月11日に発生した国内9例目（鹿児島県南さつま市）の事例において、国内1例目から8例目まで（H5N1亜型）と異なるH5N6亜型のウイルスが検出されました。また、死亡野鳥等からはH5N1亜型のほか、H5N6亜型、H5N5亜型等が検出されており、異なる亜型による続発の可能性が否定できないことから、引き続き、農場への侵入防止対策及び早期発見・早期通報の徹底が重要となります。

★農場の発生予防対策を徹底しましょう

- ・飼養衛生管理基準の遵守状況を点検し、不備があれば改善しましょう
- ・農場従業員や外部事業者等を含め、専用の衣服や長靴の着用、消毒等の衛生対策を徹底しましょう
- ・家きん舎を点検し、破損や隙間があれば遅滞なく修繕しましょう



★家きんの異状の早期発見・早期通報を徹底しましょう

- ・以下の異状を認めた場合は、管轄の家畜保健衛生所に通報をお願いします。

- ①同一の家きん舎内において、1日の家きんの死亡率が過去3週間における平均の家きんの死亡率の2倍となっている
 - ②5羽以上の家きんがまとまって死亡している又はうずくまっている
- 上記以外であっても通常時と異なる状態であると感じた場合は、通報をお願いします。

通報の遅延は、地域におけるまん延リスクを高めるだけでなく、殺処分された家きんに対する手当金が減額となる場合があります。

隣県の石川県羽咋市において、2月13日にハシブトガラス5羽から高病原性鳥インフルエンザのウイルスが検出されています。また、これから渡り鳥の北帰行に伴って、家きん飼養農場での高病原性鳥インフルエンザ発生リスクが高まることが懸念されます。

改めまして、家きん農家の皆様方におかれましては引き続き最大限の警戒をしていただき、飼養衛生管理基準の遵守徹底、防疫対策の強化をお願いいたします。

(西部家保防疫課 小林獣医師)

死亡牛の牛海綿状脳症 (BSE) 検査対象が変わります

BSEは平成13年の初発以降、国内で36例の発生が認められているものの、平成21年1月に確認された牛を最後に発生報告はありません。現在、BSE検査は96ヵ月齢以上のすべての死亡牛、48ヵ月齢以上96ヵ月齢未満の起立不能牛、全月齢のBSE特定症状(興奮しやすい、音・光に対する過敏な反応等の神経・行動異常)を呈する牛を対象として実施しています。

今般、世界的なBSEの発生状況を踏まえ、国際獣疫事務局によるBSEサーベイランスの国際基準の見直しが行われたことに伴い、国内でも法改正を経てBSE検査牛の対象区分が、令和6年4月から変更されることとなりました。

主な変更点は、以下の2点です。

- ①96ヵ月齢以上の全頭検査の廃止
- ②起立不能牛の検査対象月齢を全ての月齢に適応する。

については診療獣医師の診断書等を基に、家畜保健衛生所でBSE検査の可否を判断します。また、特定症状を呈する牛については、これまで通り月齢関係なく検査対象となります。なお、検査手数料等は変更ありません。

牛飼養農家の皆様にはお手数をおかけしますが、不明な点については管轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。

(西部家保検査課 石原主任)

アフリカ豚熱の防疫情報について

アフリカ豚熱（ASF）は、2018年に中国でアジア初の発生が確認されて以降、近隣の韓国を含むアジアの広い地域で野生いのししや飼養豚での流行が拡大しており、日本に近い韓国の釜山市では、昨年12月にASF陽性の野生いのししが見つかって以降、16例が確認されています（3月4日現在）。釜山市での確認地点は、流行地域と離れた場所かつ市街地であるため、人や物を介した人為的な伝播の可能性が疑われています。また、確認地点付近は日本への航路があるフェリーふ頭が近いことから、侵入リスクが非常に高まっていると考えられます。

平成30年に豚熱が侵入した際は、野生いのししによって国内にウイルスが拡散した経緯があります。ASFに関しても同様に野生いのししで感染が確認された場合の防疫対応が「アフリカ豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」に定められており、対策の具体化に向けて準備を進めているところです。

ASF陽性のいのししが発見された場合、発見場所近辺の通行を制限・遮断するとともに、半径10km以内で移動制限区域を設定します（右図）。通行制限や移動制限区域の境界付近には消毒ポイントを設置し、病原体の拡散を防止します。ASFの防疫対応で他の疾病と異なる点が、発見地点の半径3km内において積極的に野生いのししの死体捜索を行い、発見した場合には遺伝子検査を実施し、死体を排除する、半径3kmの外接部（緩衝地帯）で防護柵等により囲い込みを図る、半径3kmから半径10km以内では野生いのししの捕獲を進め、感受性動物の個体数削減を図るの3点です。

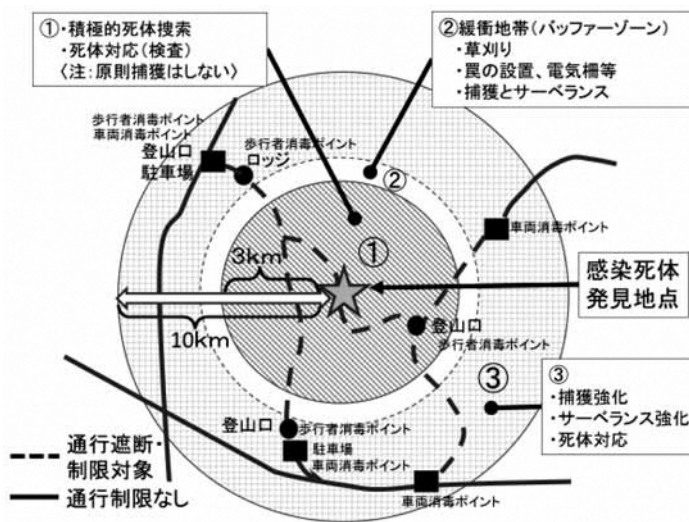


図 ASF陽性のいのしし発見時の防疫措置イメージ
（出典：農林水産省野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会資料改編）

対策の具体化にあたり、県では関係者間での情報共有体制の構築や防疫措置の実行計画策定を目的とした机上防疫演習を予定しています。

畜産関係者の皆さまにおかれましては、引き続き農場への病原体侵入防止対策を強化していただくとともに、技能実習生等の外国人従業員を受け入れている農場においては、海外から肉製品を送られることのないよう注意をお願いします。

（西部家保防疫課 宮本係長）

令和5年度家畜衛生技術検討会を開催しました

2月22日に東部家畜保健衛生所、同29日には西部家畜保健衛生所で、県、市町村、関係団体及び指定獣医師が参集し、家畜衛生技術検討会を開催しました。

検討会では、高病原性鳥インフルエンザ並びに豚熱・アフリカ豚熱（ASF）の発生状況と防疫対応を中心に家保から説明し、西部家保では同時に環境保全研修会も開催し、今年度の環境保全巡回状況などについて説明をしました。

このうちASFについては、韓国で令和元年9月の初発以降、飼養豚での発生が40件、野生いのししの感染数が3,716件、特に令和5年12月以降、釜山市においては16件（3月4日現在）と感染がすぐそこまで来ており、国内への侵入を未然に防ぐことが日本の養豚を守るために極めて重要であることを説明しました。また、農業技術課より野生いのししにおけるASF防疫対応のための県や市町村、関係団体の協力体制の構築について説明がありました。

今後も最新の情報提供に努めるとともに、市町村及び関係機関と密に連携を保ちながら家畜伝染病の防疫等の家畜衛生技術の向上に取り組んでいきたいと考えています。

（西部家保指導課 稲垣次長）



検討会の様子

祝 柏泰誠さんが令和5年度ワクワクとやま農林水産奨励賞を受賞

ワクワクとやま農林水産奨励賞は、農林水産業の担い手の育成を推進するため、若き担い手を対象に、他の模範となる経営活動等を行っている方に授与されるもので、肉用牛農家の柏泰誠さん（立山町）が2月14日に受賞されました。

柏さんは、平成16年に自農場に就農後、平成26年7月に法人化し、水田等を利用した和牛放牧や耕種農家と連携した稲WCS飼料等の安定確保により生産コストを減らすことで、収益性の向上を図られています。また、近年、受精卵移植を積極的に活用した和子牛生産に取り組み、県内の酪農家と連携し、産肉能力の高い和子牛生産や高品質な肥育牛を販売していることや、令和2年に加工販売部門となる「カシワストア」を立ち上げ、自家産和牛の精肉販売を始め、コロッケ、総菜などの加工品販売にも着手し、肉用部門に並ぶ経営部門として成長させていること等が評価されました。おめでとうございます。

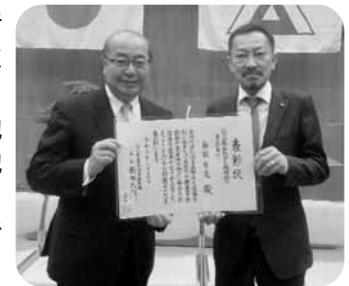


（西部家保環境課 粕谷課長）

祝 舟塚有克さんが令和5年度富山県農業振興賞を受賞

富山県農業振興賞は、農業生産の振興を図るため、県内の優秀な農業者等を表彰するもので、今年度畜産部門では肉用牛農家の舟塚有克さん（氷見市）が2月14日に受賞されました。

舟塚さんは、平成9年に自農場に就農後、平成29年9月に法人化し、地域営農組合と連携した稲WCSの収穫利用と堆肥を還元することによる地域資源循環に取り組まれています。また、氷見市和牛改良組合長として、耕作放棄地の解消と飼料自給率の向上のため、積極的に放牧に取り組んでいることや、農場で生産された雌子牛は繁殖雌牛として自家育成するとともに、氷見牛生産者が所有する繁殖雌牛の約8割に相当する140頭を飼養しており、氷見牛の生産基盤の確保に寄与していること、さらに、氷見牛ブランド促進協議会の副会長として、氷見牛の生産振興や消費拡大活動など、氷見牛ブランドの知名度向上に寄与していること等が評価されました。おめでとうございます。



（西部家保環境課 粕谷課長）

今年度最後の北陸三県和牛子牛市場が開催される

2月15日、金沢市の北陸三県家畜市場において、今年度最後の第6回和牛子牛市場が開催されました。能登半島地震後、初の開催でしたが、市場の敷地は地震による影響はほとんどなく、震災後は復興資材置き場として活用されていたそうです。また、被災した畜産農家の支援に向け、新たな購買者も訪れ、市場が活気づきました。今回を含めた今年度の市場の結果は、下表のとおりです。

令和5年度 北陸三県和牛子牛市場成績結果

開催年月		R5.4	R5.6	R5.8	R5.10	R5.12	R6.2	
頭数(売買成立頭数)	全体	201	184	159	149	148	146	
	富山県	60	40	43	49	53	44	
平均価格(千円)	全体	549	441	443	492	395	464	
	富山県	607	514	538	535	512	585	
	去勢	全体	588	479	463	551	455	493
		富山県	670	570	587	624	563	597
	雌	全体	494	386	405	403	300	410
		富山県	530	445	455	406	421	531

今回の市場では、本県から出品された去勢牛36頭、雌牛8頭の計44頭を含めた去勢牛94頭、雌牛52頭の計146頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前年に比べ2頭の減少となりました。

市場の平均価格は464千円と、昨年12月に行われた市場の平均価格より69千円高くなりました。去勢牛の平均価格は493千円、雌牛は410千円でした。最高価格は、去勢牛で759千円、雌牛が685千円でした。

地震による被害を受けた能登地区の肉用牛飼養農家の方も出品されており、復興に向けて頑張っておられます。次回（4月25日）も活発な取引が行われることを期待しています。

（西部家保環境課 加納囑託）

検査室レポート

検査実施状況(令和5年6月26日～令和6年2月25日現在)

区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数	区分	畜種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数						
病性鑑定	乳用牛	牛コロナウイルス病	3	7	7	病性鑑定	豚	豚胸膜肺炎	2	2	2						
		牛ロタウイルス病と牛コロナウイルス病	2	2	2			豚パストツレラ症	1	1	1						
		牛マンヘミア症	2	2	2			化膿性髄膜炎	1	1	1						
		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1			その他	3	7	7						
		牛マンヘミア症と牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1		鶏	鶏痘(届出伝染病)	1	5	5						
		牛コクシジウム病	1	1	1			ロイコチトゾーン症(届出伝染病)	3	17	17						
		肝膿瘍	1	1	1			鶏コクシジウム病	3	5	5						
		肝線維症	1	1	1			鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と鶏コクシジウム病	2	3	3						
		細菌性もしくは藻類による乳房炎	72	285	634			鶏アスペルギルス症と鶏コクシジウム病	1	1	1						
		その他	201	250	268			尿酸塩沈着症	1	1	1						
	肉用牛	牛コロナウイルス病	4	11	11	緬・山羊・馬・その他	消化管内線虫症	3	3	3							
		牛ロタウイルス病	3	4	4		大脳皮質壊死症	1	1	1							
		牛RSウイルス病	1	1	1		肝線維症	1	1	1							
		牛コロナウイルス病と牛パストツレラ症	1	1	1		細菌性乳房炎	6	14	21							
		牛伝染性リンパ腫(届出伝染病)	1	1	1		その他	28	50	51							
		牛パストツレラ症	6	8	8		一般検査	牛・豚・鶏・山羊		375	2,597	4,083					
		牛マンヘミア症	1	2	2	鳥インフルエンザ検査	鶏	分離・抗体検査	48	480	960						
		牛マイコプラズマ肺炎	1	1	1							BSE検査	牛	エライザ検査	34	34	34
		トウルエペレラ・ビオゲネス感染症とヒストフィルス・ソムニ感染症	1	1	1	TSE検査	緬・山羊	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査(動物衛生研究部門に依頼)	13	13	13						
		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1							豚熱検査	野生いのしし	PCR検査	33	965	965
		牛大腸菌症	1	1	1												
		牛コクシジウム病	1	1	1												
		乳頭囊線虫症	2	2	2												
		尿石症	1	1	1												
		その他	168	205	224												

(西部家保検査課 野田課長)

【トピックス】牛マンヘミア症

牛マンヘミア症は、主に *Mannheimia haemolytica* を原因菌とした細菌感染症であり、発咳・発熱等の呼吸器症状を引き起こします。特に本菌が産生する毒素のロイコトキシンは急性かつ重度な肺炎を引き起こし、さらにウイルスやマイコプラズマとの混合感染がおこることも多く、本症が牛呼吸器病候群における致死的要因となる場合もあり注意が必要です。

本菌は上部気道の常在菌であり、健康な牛では必ずしも症状が出るわけではありません。しかし、移動や寒冷、飼育環境の変化等により免疫機能が低下することで病原性を発揮します。当所に搬入される呼吸器症状を示す病性鑑定牛の多くが若齢牛ですが、*Mannheimia haemolytica* が分離された肺炎症例では成牛の死亡例も確認されています。

対策として、適切な抗菌剤による早期の治療とワクチンによる予防が有効です。牛マンヘミア症のワクチンには、本症のみを予防するものやその他呼吸器疾病との混合ワクチンもあります。農場の状況に合わせたワクチンの選択や接種プログラムについては、診療獣医師や家畜保健衛生所にご相談ください。

(西部家保検査課 西村主任)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

豚熱（法定伝染病）

（3月6日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
90	2月16日	栃木県栃木市	一貫	約1,100頭	
	関連施設	栃木県芳賀町	—	26頭	

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（3月6日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備考
9	2月11日	鹿児島県南さつま市	肉用種鶏	約5,400羽	H5N6
	関連農場	同上	肉用種鶏	約7,600羽	H5N6

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛マイコプラズマ肺炎	牛	1月28日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	2月5日	1	1	
牛マンヘミア症と牛クロストリジウム・パープリンゲンス感染症	牛	2月9日	1	1	
尿石症	牛	2月13日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	2月6日	2	2	と畜場発見
		2月15日	2	2	
		2月19日	1	1	

県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例（令和6年2月以降）

（3月6日現在）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	2月14日	富山市婦中町高塚地内	成獣	雌
2	捕獲	3月4日	黒部市尾山地内	成獣	雄

令和5年（2023）シーズンの野鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス発生状況

（3月6日現在）

事例	回収日 採取日	場所	種名	最終判定
84～121 38事例	1月8日～ 2月29日	北海道：浜中町、札幌市、根室市、中川町、浦河町、釧路市、函館市、日高町 岩手県：久慈市、大船渡市 群馬県：太田市、石川県：羽咋市 愛知県：常滑市、大阪府：堺市 熊本県：熊本市、玉名市 （下線は今シーズン初確認の県を示す）	ハシブトガラス オオハクチョウ オオタカ ハヤブサ ノスリ オジロワシ ホシハジロ クマタカ	48検体：H5N1 20検体：H5N5

定期報告等の手続きが電子化されます

令和7年2月から定期報告等の手続きが電子化されます。これに伴い、家畜を飼養する皆様は、農林水産省共通申請サービス（通称：eMAFF）を利用すると、手続きの詳細確認や申請を行うことができます。利用には「eMAFF ID」が必要となり、その取得の流れは以下のとおりです。

eMAFF ポータル (<https://e.maff.go.jp>) あるいは右記 QR コードから、「gBizID（G ビズ ID）」を登録、上記サイトから「gBizID」でログイン、eMAFF ID が自動で取得できます。

なお、スマホ向けのアプリは令和6年4月から開始予定です。家畜を飼養する皆様は、eMAFF ID 取得の手続きをお願いします。

（西部家保防疫課 飯田課長）

eMAFF ポータル



農林水産省HP

eMAFF
操作説明動画



農林水産省HP

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 粕谷 健一郎（富山県西部家畜保健衛生所）

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/index.html
電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140